

第8回: 合理的戦争原因論、民主的平和論とその対抗的議論

合理的戦争原因論、民主的平和論とその対抗的議論を概観する。

資料: 砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第10章

第9回: 内戦、テロリズム、非国家主体

内戦やテロリズムに関する国際関係論の代表的な研究を紹介する。

資料: 砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第12章

第10回: 国際政治経済

国際政治経済をめぐる諸理論・論点をカバーする。

資料: 砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第11章

第11回: グローバリゼーションと国際関係(テキスト第8章)

グローバリゼーションが国際関係に与える影響の諸側面について講義する。

第12回: 情報革命と国際関係(テキスト第9章)

情報革命による国際関係が受けている様々な影響と概念(例、ソフトパワー、パブリックディプロマシー)を講義する。

第13回: 現在の引火点(テキスト第7章)

教科書を参照しながら国際関係のリスク要因について分析と議論を行う。

第14回: 国際関係の方法

国際関係を分析するさまざまなツールと先端研究の例を示して学問としての展望を示す。

第15回: 授業内試験および試験の講評

授業内で試験を実施する。試験の講評を短時間で実施する。

なぜブロック経済は問題だったのか？

自由貿易はなんで望ましいのか？

自由貿易はみんなにお得なのか？

どうしてトランプは保護主義化してしまうのか？

人と金の移動：トリレンマとはなにか？底辺への競争？

多国間主義と二国間主義、単独主義とは何か？

なぜブロック経済は問題だったのか？

第二次世界大戦のある種の原因とされてきた

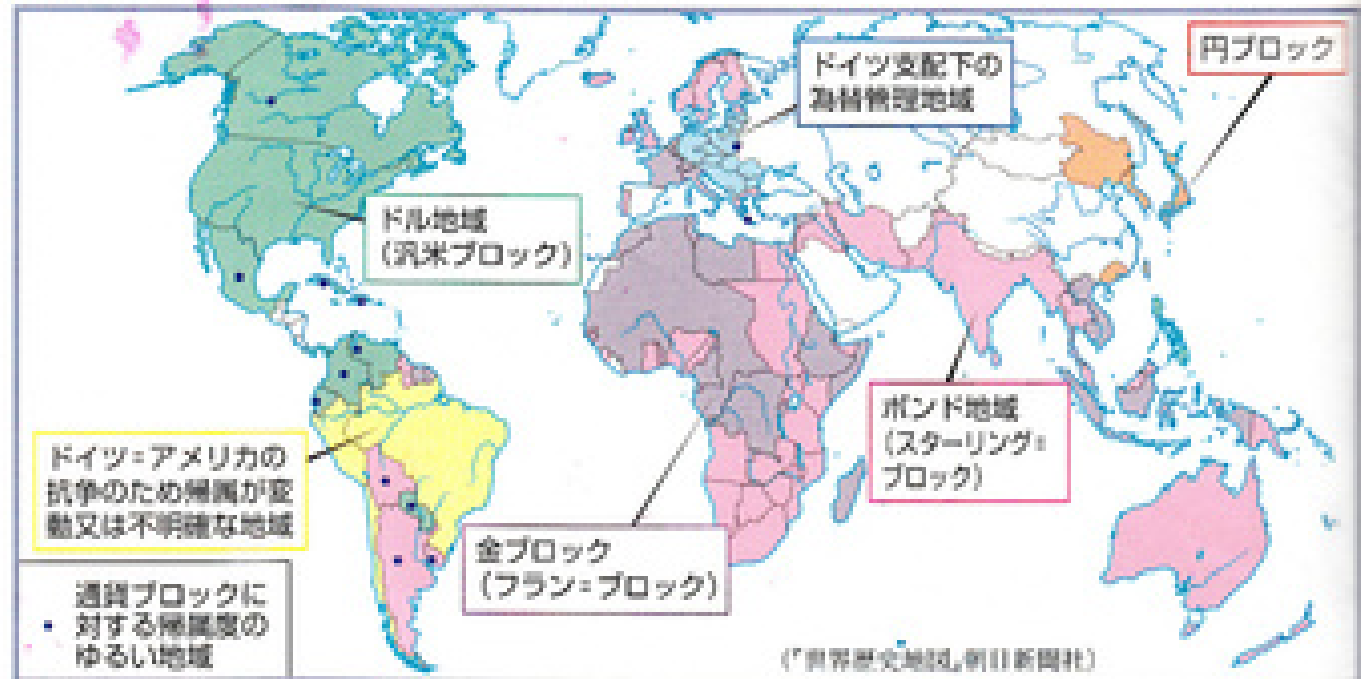
② 各国の恐慌への対応

持てる国 （資源・工業力）	英	・マクドナルド単国一致内閣→失業保険削減(1931) 金本位制停止(1931) ・ウェストミンスター憲章→イギリス連邦の枠組み完成 ・オタワ会議→スターリング=ブロック形成(1932)
	仏	・フラン=ブロック形成(1934)
	米	・フランクリン=ローズヴェルト大統領 →ニューディール政策(1933~35) 善隣友好外交
持たざる国 （資源・工業力）	ソ	・第1次五カ年計画(1928~32) ※恐慌の影響なし
	独	・ヒトラー内閣成立(1933) →公共事業・軍需産業拡大
	伊	・ムッソリーニ政権 →エチオピア侵略(1935~36)
	日	・満州事変(1931~32) →「満州国」建国(1932)



①マクドナルド
(英首相) (P.229)

③ 世界経済のブロック化



①恐慌対策として「持てる国」は本国・植民地・自治領で経済ブロックを形成。排他的な保護貿易主義へと傾いた。「持たざる国」は植民地を獲得し経済ブロックを作り上げるために、対外侵略を積極的に実施した。

自由貿易はなんで望ましいのか？

リカードモデル

- A国とB国がある
- 相互に貿易していないとすると、どうなるだろうか？

	国内の総労働量	車一台当たりの 必要労働量	米1トン当たりの 必要労働量
A国	2000人	2人	4人
B国	5000人	10人	5人

リカードモデル

- A国はB国に比べて、自動車生産／米生産に相対的に秀でている
- B国はA国に比べて、自動車生産／米生産に相対的に秀でている

	国内の総労働量	車一台当たりの 必要労働量	米1トン当たりの 必要労働量
A国	2000人	2人	4人
B国	5000人	10人	5人

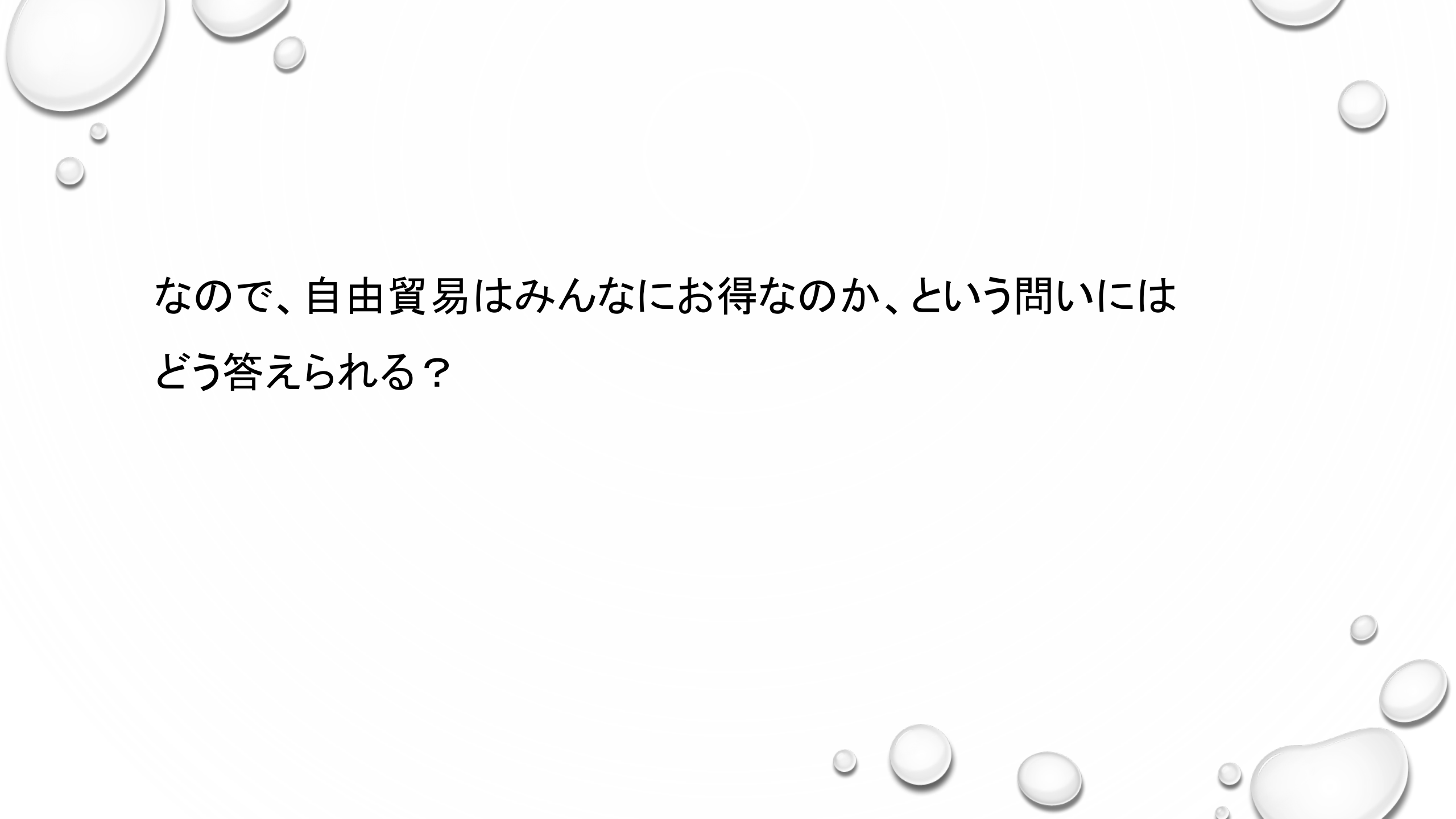
リカードモデル

- 自由貿易をすれば、世界のモノの生産量は最大に
自由貿易の場合の世界の生産量は、車1000台、米1000トン

	国内の総労働量	車一台当たりの 必要労働量	米1トン当たりの 必要労働量
A国	2000人	2人	4人
B国	5000人	10人	5人

自由貿易が望ましい ＝世界の生産量が最大化される

- 比較優位（リカード）
 - それぞれの国が自らの比較優位をもつ産業に特化
 - 国際的な分業による利益がもたらされる
 - 生産量という点で世界をもっとも豊かにする
- 自由貿易による損失も当然ある
 - 国内での調整コスト（労働者の職業移動など）
 - 生産の固定化による格差の固定化
 - 他国への依存による安全保障上の懸念：食糧安全保障

The image features a white background with several realistic water droplets of varying sizes in the corners. In the top-left corner, there are three droplets of different sizes. In the top-right corner, there are two droplets. In the bottom-right corner, there is a cluster of four droplets, including one large one and three smaller ones. In the bottom-center area, there are three droplets of different sizes.

なので、自由貿易はみんなにお得なのか、という問いには
どう答えられる？

自由貿易は消費者にとっては得となる(生産量大＝価格が安く)

比較優位産業(特化していく産業)従事者には得になる

⇒ 比較劣位産業(調整される産業)従事者には損になる

さらにヘクシャー・オーリン、ストルパー・サミュエルソンモデルで考えると、先進国(資本賦存)は資本集約産業(資本家)が、途上国(労働賦存)は労働集約産業が有利に

どうしてトランプは保護主義化してしまうのか？

答えは、囚人のジレンマモデル

		B国	
		保護貿易	自由貿易
A国	保護貿易	A国：10兆円 B国：10兆円	A国：50兆円 B国：8兆円
	自由貿易	A国：8兆円 B国：50兆円	A国：40兆円 B国：40兆円

人と金の移動:トリレンマとはなにか？底辺への競争？

人の移動

- 移民：ヒトの移動における依存と摩擦
 - 移民（経済移民）への要請
 - 先進国の高度成長、少子化・高齢化：労働力の不足
 - 当初の移民の多くは単純労働力
 - 移民による文化摩擦
 - ドイツにおけるトルコ人ガストアルバイター
 - 1955年に募集協定がスタート／トルコ側も自国民の将来の帰国を予定
 - 1972年に募集停止、その後は家族を呼び寄せる
 - 単純労働→ドイツの低所得層との競争
 - 移民との競争：移民排斥運動の激化／ヘイトスピーチ問題
→外交問題に発展することも少なくない
 - 単純労働から専門労働への限定

カネの移動

- 資本:カネの移動における依存と摩擦
 - 国際金融のトリレンマ
 - 為替の安定(固定相場制)、独立した金融政策(自律的な金利決定)、自由な資本移動という3つの政策はどれか2つしか同時に成立しない
 - 自由な資本移動に対する規制→固定相場制の放棄へ
 - 国際的な投機:自由な資本移動によって通貨の不安定化も
 - 新富裕層の移動
 - 新富裕層:ITや金融業の発展により、富と土地のリンクが薄くなる
 - 税率の高い母国から税率の低いタックス・ヘイブンへ
 - 国際版「足による投票」:国家間の税率引き下げ競争
→福祉国家の存続を困難に

カネの移動：国際金融のトリレンマ

~~自由な資本移動~~

独立した金融政策
(金利の自律的な決定)

為替の安定(固定相場制)

⇒資本規制の実施

自由な資本移動

~~独立した金融政策
(金利の自律的な決定)~~

為替の安定(固定相場制)

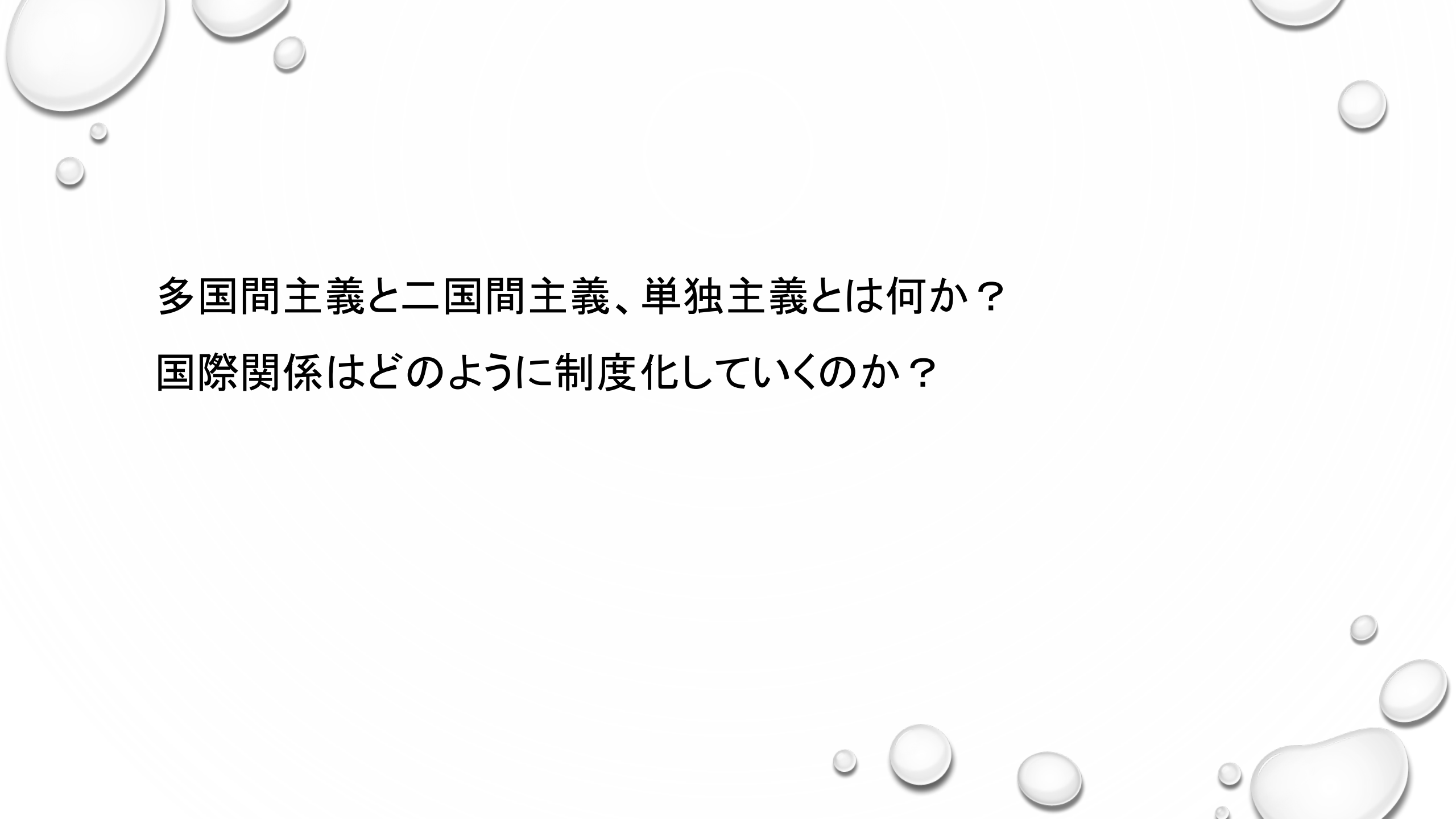
⇒金利決定が自由にできず

自由な資本移動

独立した金融政策
(金利の自律的な決定)

~~為替の安定(固定相場制)~~

⇒変動相場制の採用

The slide features a white background with several realistic water droplets of varying sizes in the corners. In the top-left, there are several droplets, including a large one. In the top-right, there are a few smaller droplets. In the bottom-right, there is a large, irregular droplet and several smaller ones. In the bottom-center, there are a few more small droplets.

多国間主義と二国間主義、単独主義とは何か？
国際関係はどのように制度化していくのか？

- 国際関係における手段選択

- 多国間主義

- 超大国による自己抑制と正統性の確保の手段(オバマまでのアメリカ)
 - 中小国は多国間主義で一定のパワーを持ちうることも

- 二国間主義

- 大国は圧倒的に有利な手段として積極活用も(トランプのアメリカ、中国)
 - 日本の援助はバイとマルチどのようにミックスされてきたか？

- 単独主義

- アメリカの武力行使の7から8割が単独主義(決定と行動の二つの側面で)
 - 超大国の単独主義は反発を生んでさらなる問題を引き起こすことも

- 国際関係における制度

- 制度化の特徴

- 国家の自由と秩序から逸脱した場合の制裁を規定
 - 何を逸脱と捉えるか自体が重要な論点

- 逸脱に対する制裁

- 自由貿易をめぐる制度: GATT/WTOなど
 - 秩序からの逸脱行為を明文化したうえで紛争解決
 - 対抗措置がエスカレートすることを防ぐ

- 逸脱の内容についての討議

- 税制: OECD租税委員会など
 - タックス・ヘイブンについての「逸脱」の定義を議論→困難

- 地域主義の展開

- 相対的に容易な制度形成

- FTAなど: グローバルな国際制度(GATT/WTOなど)の補完
 - すべての国が合意することは困難
 - 利害の近く合意が容易な少数の国でより深い自由化
 - 反自由主義的な性格: 加盟国と非加盟国を差別し障壁を形成

- 経済協力を越えた信頼醸成

- EU: 欧州石炭鉄鋼共同体(ECSC) → 関税同盟 → 通貨統合
 - 経済的な協力を梃子に政治的関係の安定化
 - 欧州統合: 加盟国からの代表機関(EU委員会・EU議会)を設定
 - EU議員は各国における選挙で選出、手続きを経てEUとして意思決定
 - EUによる決定(EU指令)は加盟国を拘束

- 制度間関係

- 複合的な国際制度

- グローバル／地域的、先進国／途上国／産油国
 - 国家の属性に従ってそれぞれの制度に参加
 - スパゲティーボール：制度の乱立で貿易実務が煩瑣に

- 制度の選択

- フォーラムショッピング：各国が有効な裁定を受ける制度を選択
 - バナナの貿易をめぐってヨーロッパの国と南米の国が紛争
 - GATT/WTO？EU？どこに持ち込むかは裁定の予想による
 - カスケード現象：制度加盟への連鎖反応
 - 加盟国が増えるほど当該国際制度を利用することが有利になる
 - 連鎖反応を起こす率先国の存在が重要

第8回: 合理的戦争原因論、民主的平和論とその対抗的議論

合理的戦争原因論、民主的平和論とその対抗的議論を概観する。

資料: 砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第10章

第9回: 内戦、テロリズム、非国家主体

内戦やテロリズムに関する国際関係論の代表的な研究を紹介する。

資料: 砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第12章

第10回: 国際政治経済

国際政治経済をめぐる諸理論・論点をカバーする。

資料: 砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第11章

第11回: グローバリゼーションと国際関係(テキスト第8章)

グローバリゼーションが国際関係に与える影響の諸側面について講義する。

第12回: 情報革命と国際関係(テキスト第9章)

情報革命による国際関係が受けている様々な影響と概念(例、ソフトパワー、パブリックディプロマシー)を講義する。

第13回: 現在の引火点(テキスト第7章)

教科書を参照しながら国際関係のリスク要因について分析と議論を行う。

第14回: 国際関係の方法

国際関係を分析するさまざまなツールと先端研究の例を示して学問としての展望を示す。

第15回: 授業内試験および試験の講評

授業内で試験を実施する。試験の講評を短時間で実施する。